

行政視察報告書

(期間: 2024 年 9 月 30 日～10 月 2 日)

◆日程

9 月 30 日(月)	10 月 1 日(火)	10 月 2 日(水)
・ 矢板発 7:00 ・ 茨城空港発 11:00 ・ 那覇空港着 13:50 ・ 読谷村研修 15:30 ・ 恩納村泊 18:30	・ 恩納村発 9:00 ・ 名護市研修 10:00 ・ 道の駅許田 14:00 ・ 那覇市泊 17:00	・ 那覇市発 8:00 ・ 糸満市研修 9:00 ・ ひめゆり平和祈念資料館 11:00 ・ 那覇空港発 15:25 ・ 茨城空港着 18:00 ・ 矢板市着 20:00

◆矢板市市議会視察議員団 (6 人)

団長 ・石井 郁男 議会運営委員会 委員長
・小林 勇治 予算決算常任委員会 委員長
・石塚 政行 矢板市議会 副議長
・桜井 恵二 予算決算常任委員会 副委員長
・掛下 法示 教育福祉産業常任委員会 副委員長
・齋藤 典子 教育福祉産業常任委員会

◆読谷村行政視察

沖縄県中頭郡読谷村字座喜味 2901 tel.098-982-9225

(1)面会者

議会 議長(伊波 篤)、事務局(儀保一樹)、ゆたさむら推進部 部長(山内 嘉親)
商工観光課 課長(池原一発)、 商工観光課 係長(島袋 直人)

(2)視察目的 ⇒「スポーツツーリズム」について

日本一人口の多い村読谷村の重点施策のスポーツを通した村づくりに注目し、矢板市でもスポーツツーリズムを重点政策としているので、読谷村のすすんだ村の取組について学ぶ。

(3)村からの説明について...資料に基づき説明を受ける

沖縄県は豊かな自然。温暖な気候といった観光条件を生かした国際的な観光立県を進め、観光産業は沖縄経済の柱へと成長してきた。その一環としてスポーツコンベンション誘致を推進しています。読谷村では、スポーツキャンプの受け入れ促進、読谷村が選手の第二の故郷となるような地域交流等、スポーツを通して観光交流分野と複合した新たな地域振興、むら(ひと)づくりを進めます。

具体的取り組み内容は

◆誘致活動

トップセールスによる活動

キーパーソン招待による合宿の実証

筋肉トレーニング用の機械を充実させている。

◆誘客活動

県外 PR イベントの開催...中日ドラゴンズへの誘客活動、沖縄エイサーでの誘客イベント

◆受け入れ実績 (これまでの累計実績)



- ・スポーツキャンプ受け入れ数(R5 年単年度 16件)
- ・野球中日ドラゴンズキャンプ(28 回)、学生野球合宿(6 団体 15 回)、Jリーグサッカー合宿(3 団体21回)
- ・各種団体サッカー合宿(8団体 9 回) ・陸上・パラ陸上受け入れ(個人 3 人、団体8競技部)
- ・ラグビー合宿(12 団体、42 回) ・女子ソフトボール(6 団体、24回)
- ・読谷流おもてなし: 観光協会(歓迎セレモニー、グッズ販売、イベント開催、情報発信)
商工会(特産品贈呈、村内企業との連携)、スポーツ団体(スポーツ教室開催、受け入れ準備支援)
教育関係(選手と子どもたちとの交流、挨拶運動、給食交流等)

(4)質疑応答 ○:議員質問 A:村からの答弁

○読谷村の受け入れが素晴らしい。何かポイントあるか

A: 最初の印象が大切であり、種々工夫している。

○村内民間企業と連携した支援金について、その宣伝活動は

A: SNS を活用した情報発信に力をいれている。例えばお酒であれば、大きな模型サンプルをつくり、SNS で発信して宣伝効果を上げている。

○はじめの受け入れはどのようにしているか。

A: 最初プロ野球の 2 軍選手の受け入れしたときに、おもてなしを大切にしたら結果、次に 1 軍選手のキャンプにつながった。口伝いで次の誘致につながっている。

○スポーツツーリズムの経済効果は

A: 年間 14 億円です。

○キャンプ時、地域のスポーツ活動交流会を実施しているが、そのときのポイントは

A: できるだけ交流時間を長くもつために、代表等の挨拶を少なくしている。挨拶については動画を利用している。

(5)研修を受けての感想・今後の議員活動への反映等

読谷村では、誘致する為の環境が素晴らしい。やはり、環境を整えてスポーツ誘致は、必要であると思う。読谷村では、必ず出向いて行きパンフレット、特産品をもってプロモーションして、広げて宣伝効果に繋がり今は多くのプロ野球、サッカー、ラグビー選手などが、集まりおもてなしの心を大切にしているという。

矢板市でも、スポーツ誘致にあたっては、自ら誘致活動をしたうえで常におもてなしをきちんとすれば必ず次につながると思う。

補助金の金額が違っているので、読谷村のようになるのは、厳しいと思うが、PR することで今まで以上に来てもらえると思う

◆名護市(なごアグリパークにおける取組) 沖縄県名護市港一丁目 1 番 1 号 tel090-53-1212

(1)面会者

議会 事務局長(屋部 憲克)、名護市役所園芸畜産課 係長(新田 宗達)、

(2)視察目的 ⇒農産物6次産業化支援拠点施設について

農業を支えるまちづくりを目指して、なごアグリパークにおける、農産物6次産業化支援拠点施設整備事業に対する事業を学ぶ。

※6次産業化とは、1次産業の農林漁業、2次産業の製造業。3次産業の小売り業の事業との総合的かつ一体的な推進を図り、地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取り組みを言う。

(3) なごアグリパークにおける取組の説明について..資料と現場視察で説明をうける。

名護市農業粗生産額は、1990年代に92億円あったが、2010年には約58億円に減少して、農家所得が減少し農業低迷の原因となった。この解決のために、農地利用の最適化や販路拡大、高付加価値化による農業所得の安定化を目指し、6次産業化の推進策として、なごアグリパーク構想が提案された。

2011年(平成23年)より農林水産省が「6次産業化事業計画の認定」が開始された。名護市では、計画認定された初の団体(農クックソニア)が誕生したが、加工品量産のための場所や機材を用意することが困難な課題があった。平成24年度より沖縄振興特別推進交付金が開始されたので、交付額約803億円うち、名護市に約11億円の交付を受けて、なごアグリパーク事業がスタートした。

事業内訳	平成24年度	加工支援施設建設。駐車場整備	約6.7億円
	平成25年度	ショップの建設	約3.6億円
	平成26年度	レストラン、エントランス、観光ハウス建設	約4.3億円
	平成28年度	観光ハウス(2)、栽培ヤードの建設、ハーブ円整備	約1.7億円
		総事業費	約16億円
	平成29年11月	全体間完了整備	
	指定管理者	沖縄美ら島財団	
	年間目標集客数	30万人(オープン3年後)	

■なごアグリパーク完成後の取り組み

- ・加工支援施設... 農産物の加工(2次部分)を支援)
- ・ショップ...加工品等の販売(3次部分)を支援
- ・レストラン...農家と連携し名護産農産物を提供)
- ・観光農園... 集客施設として各施設との相乗効果を担う



(4)現場での質疑応答 ○:議員質問 A:町からの答弁 ※書面での質問と回答

○加工支援設備は、各種試験装置や食品加工設備を保有しているが、稼働率はどの程度か

A:当初は月10数件の利用があったが、現在は月2-3件、農家の人は高付加価値の加工食品開発に取り組むのは難しく、現在では、企業等が利用している。

○観光農園での栽培品種は

A: アップルバナナ、マンゴー、コーヒー、グアバ、ミカン類

○年間目標集客数30万人に対する現状は

A:平成2年約11万人。今年度約10万人の見込み

※・加工支援施設での設備名称は

・アグリパーク全体での年間売り上げは

・ショップ販売の独自商品は

・6次加工食品はどのようなものがあるか。

(5)研修を受けての感想・今後の議員活動への反映等

名護市では、農家の所得が15年で34億減少し、低迷しており県から11億の交付を受けて16億かけて、6次産業の拠点施設ができた。すばらしい環境が整い試食品の加工施設も完備されたが、現在はほとんど稼働されていないとのこと。やはり農業生産者は、生産をするだけで、手が回らないのが現状という。個人が6次産業をしていくには難しいこともわかった。直売所も併設されていたが、値段が高くて考えてしまう。

矢板市は、現在道の駅の売り上げを伸ばし農家の所得も増えてきていると思う。今後は、6次産業に対してはなかなか難しいが、矢板市としての新たな特産品を作れる環境を整えていただき、後押しがほしい。そして6次産業に取り組みたい個人、団体がある場合支援して協力してほしい

◆沖縄県糸満市行政視察

沖縄県糸満市潮崎町1-1 tel.098-840-8100

(1)面会者

議会事務局長(伊集 親洋) 教育委員会主事(上原 あやか)

教育委員会 係長(大城 一成)、市役所 政策推進課 課長(金城 荘)、企画部係長(本村 弥生)

(2)視察目的 ⇒「平和事業、平和教育」の取り組みについて

沖縄県は、第2次世界大戦末期、激しい地上戦である沖縄戦が繰り広げられ、20万人の尊い命が失われ、そのうち9万4千人は一般住民でした。最後の激戦地である糸満市でも多くの住民が戦禍の犠牲となり、沖縄戦終焉の地ともいわれ、戦争遺構や慰霊塔が数多く点在しています。

悲慘な戦争を二度と繰り返さないよう、世界の恒久平和の実現のため、ここ糸満市から戦争の悲慘さ、平和の尊さを発信し続けています。この平和事業、平和教育の取り組みについて学ぶ。

(3)平和事業の取り組みについて...資料と映像により、説明を受ける

・平和都市宣言について、平成5年12月1日に、20万人の尊い命が失われ、沖縄線の最後の激戦地となった糸満市の歴史的背景を持つ本市は「ひかりとみどりといのりのまち」を基本理念とした平和都市宣言を行いました。

具体的取り組み内容は

- 1) 平和祈念祭推進事業…平和の礎拭き清め、平和関連舞台演目(絵本ひめゆり朗読等)
- 2) 平和の語り部育成事業…戦争を知らない世代の、さらに子や孫である世代に沖縄戦の実像を伝え、歴史を後世に伝える人材育成事業(中・高校生・大人対象)

3) 戦争遺構の保全・活用について…戦後79年が過ぎ、戦争体験者も少なくなり、戦争の記憶継承は人からモノへと言われている。市内に点在する避難壕(ガマ)や戦争被害を受けた構築物は、戦争の記憶を伝える物言わぬ語り部であり、若い世代に現実を伝える生きた教材である。近年自然風化が進んでいるので、戦争遺構の保全及び活用方針の再検討を行う。

4) 平和の発信・慰霊祭等の取り組みについて

- ・各都道府県慰霊塔・碑(46 都道府県の塔、442基の塔・碑)の一部を沖縄県平和祈念財団で清掃管理
- ・沖縄戦跡国定公園は、本当南部の戦跡を保護する公園
- ・平和の礎…沖縄戦で亡くなられた人々の記念碑 242,225 人(県内 149,658 人、県外 77,978 人、国外 14,589 人)
- ・慰霊祭…市内にある慰霊の塔・碑で開催される慰霊祭に参加・協力する。

(4)質疑応答 ○:議員質問 A:町からの答弁

○平和学習は学校でも実施していますか。

A: 総合学習の中で平和学習を実施している。

○市民が語る戦中戦後史については、一般市民でも映像みれるか

A:一部はユーチューブで公開している。

○各種団体慰霊塔は、バックナー中将戦死之跡は外国人も慰霊碑あるのか。

A:外国人の慰霊碑もある。平和の礎も外国人も記載している。



(5)研修を受けての感想・今後の議員活動への反映等

今世界では、恐ろしい戦争があちこちでおきている。糸満市では、きちんとした平和教育の学習を実施して実際に体験学習もしているとのこと。動画を見せていただき戦争の恐ろしさを目の当たりにし、ユーチューブでも配信しているとのことなので戦争の恐ろしさや、平和のありがたさを、子供たちに伝えていきたい。

矢板市の学校教育の中でも、沖縄の現状と今世界で起こっている現状を道徳の事業を増やし映画を視聴させて伝えてほしいと思う。

サロン・クローバー「廃校利用について」

2024.11.01

<川崎小学校の廃校利用>

開会后

佐藤先生による高等学校プロジェクトについてお話がありました。

内容は別紙

班ごとに意見交換

1班

・川崎小について

佐藤先生の提案に賛成する。地域の協力が必要

・安沢小

グループホームとしてみんなでお金を出せば、維持できる。調理もみんなで作って農園も作って料理する。そんな環境が良いのでは！

・乙幡小は、難しいので解体して企業誘致してはどうか。働く場所も出来る。

・市内のプールは、東小が新しくなるので、東小に1つ作ってはどうか他の小学校の子供たちも行けるようにする。

2班

・やりたいことーランチの出来るところに、宿泊の出来るところに

・廃校ばかり目を向けなくて市営住宅も視野に入れてはどうか

・高齢者が、集まって住める住みたい住宅を作る。

・魅力ある住宅を作りシングルマザーが駆け込みとして高齢者が面倒を見て高齢者から手当てをもらう

・学校2棟あるうちの1棟は、シングルマザー用

1棟は高齢者用病児の子を24時間見てもらえる環境を

・学校は床が広いので一部の貸し出しをしてほしい

・学校を使うのは 最初は難しい用途変更が大変

・市が、貸し出す仕組みがよい

3班

川崎小

・農泊 自然豊か、佐藤先生の提案と一緒にできないか

・社協 泉は遠いので

・やりたい人が使いやすく使えるように

・全国から募る

・外国人に対する不安感

・中国人は日本に対する羨ましき

・やってみて問題点が出てきたら対処すべき

・日本の街は一番住みやすいので分校を作る

世界のエリート

- ・学生が戻ってくるような施設に
- ・地元の方との交流、高齢者との交流、多世代交流
- ・矢板中央高校生が全国から集まっているが、その世界版
- ・生涯学習の教室を開く
- ・まずは使える教室や体育館から利用していくことが大切
- ・イベントで使いたい若者もいる
- ・使ってみないとわからない部分もある
- ・廃校利用の見学ツアーがあっても良いのではないか
- ・コーディネーターによる廃校管理

<参加者自己紹介>

町井：川崎小学校の卒業生として良い方向に進めていただきたい

金田としえ：矢板は働く所が無い。教員の孫がいるので心配

増淵：矢板に移住して4年。今回良くできることが分かった

畠山：中国人学校の計画に感謝

松原：星野自動車エリアマネージャー 矢板で何か面白いことができないか

とても良いアイデアがあってわくわく。子育てや仲間づくりで廃校利用

中嶋：何かの形で活性化して皆で楽しめるのが大切。夢が有り納得のいくものを作りたい

漆原：地域おこし協力隊の手塚さんと共にレジャー 負の遺産にせずに利用できるものに。

浦部：矢板で20年以上。今日の話を楽しく聞いた。

大野：学校と病院のない町はつぶれる。皆で集まって考えることが大切。行政の時代は終わり。

民間、住民が考える時代に。

中村：佐藤先生のプランが実現できるように、皆の考えが伝わるように持続した会議望む。

佐藤：生まれ烏山。矢板には縁。宇都宮高校、宇都宮女子高校。

矢板中央高校で10年間校長、サッカー部、女子バスケ部。女子ソフト部。

両方インターハイ全国大会出場。中国から女子選手2名招聘。矢板東高校で2年間。

PTA 会長新川屋の小川さんとカンボジアに小学校。1棟100万円。昨年歓迎を受けた。

矢板中央高校サッカー部300名。サッカー部に援助要望。

川崎小学校に中国人学校開設に向けて尽力。

榊：子育て世代が住みやすく。交流できる施設

高瀬：佐藤校長先生の中国人学校で多世代交流。交流人口増から定住促進図る。

渡邊：やっている方をみんなで応援する。多種多様なボランティアで市民力UP

斎藤：佐藤校長先生のお手伝いをして推進したい。農泊施設も一緒に作れたら良いと思う。

今日の会合がとても良い機会になったので今後も、集まりをもっていきたい

アンケート

- ・ よいお話が出来てよかった。
- ・ 矢板市内で行うイベントや事業などを市民全員に知らせる方法を
- ・ 課題—イベントチラシを小、中、高で配ってもらいたいけど市の後援がないと配ってもらえないので、直接各学校に手渡している。
- ・ 初めて参加して、廃校活用を考えている方がこんなに沢山いらっしゃることにワクワクしました。
- ・ 子育て世代として子供たちにとって、楽しいふるさとにできるよういろいろなところで力になればいいと思いました。
- ・ 次回は川崎小でサロン クローバーを開催してほしいそしてそこで廃校利用を考えてみたいです。
- ・ 娘が県外にいるが、未来館に遊びにいったら入れてもらえなかった。
- ・ 子供の遊べる施設が少ない
- ・ 第二のふるさとに来るのがとても楽しみにしているので矢板を宣伝してほしいです。
- ・ 中央高校生は、県外から沢山来ている。学校を卒業しても第二のふるさとなのでお招きできるよう第二のふるさとを作ってあげてほしい
(ふるさと納税伸ばすのに矢板に愛着を持ってもらうために。)